



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 335

November 2018

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館 19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN



クリスマス祝賀会のお知らせ

今年も恒例のクリスマス祝賀会を開催します。

クリスマス祝賀会は、神戸日独協会の伝統ある最も重要な行事の一つです。

多くの会員にご参加をいただいて、この一年の協会での活動を振り返り、楽しい懇談の一夜を過ごしていただきたく、ご案内いたします。

今年も祝賀会に先立ち、ミニコンサートを行います。ソプラノの中原加奈さん、フルートの溝川麻由さん、ピアノの平山梨絵さんによるドイツリートを含む歌、フルート、ピアノの連弾など、一足早いクリスマスの雰囲気を楽しんでいただける多彩なプログラムを予定しています。

祝賀会では例年のようにクリスマスソングを参加者で合唱をしてクリスマスのお祝いをし、お楽しみ抽選会も行います。景品のご提供をお願いいたします。

美味しいお食事や会員との懇談を楽しみ、クリスマスを会員みんなで祝賀しましょう！
ご参加をお待ちしています。

日 時： 2018年12月9日(日) 17:00~20:00 (受付は16:30から)

会 場： 神戸倶楽部 (Kobe Club)

(神戸市中央区北野町4丁目15-1 TEL 078-241-2588(代))

会 費： 会員 7,000円 非会員 7,500円 (着席ビュフェ、飲物は各自払い)

定 員： 80名 定員になり次第締め切らせて頂きます。

申込・問合せ：NPO法人 神戸日独協会事務局

12月5日(水)までに事務局に電話・ファックス・メールで申込の上、同封の郵便振込用紙にて会費をお振込み下さい。

月~金の 12:00~18:00 に TEL/FAX 078-230-8150 E-mail:info@jdg-kobe.org

※振込用紙の通信欄に「クリスマス」とご記入下さい。

フィーツェドイツ大使館首席公使来神

東京のドイツ連邦共和国大使館首席公使クラウス・フィーツェ Klaus Vietze 氏が奥様とご一緒に10月26日に神戸へいらっしゃいました。協会の柘田会長夫妻、尾辺副会長、トウルンマー理事、植松理事により歓迎会を国際会館内で行いました。

フィーツェ首席公使は1995年から1999年まで大阪・神戸ドイツ総領事館に勤務されましたので、ご面識のある方もいらっしゃると思います。2004年－2008年の在日ドイツ大使館広報部長を経て、本年8月に在日ドイツ大使館首席公使として着任されました。

フィーツェ氏は阪神淡路大地震の数日前に神戸に着任されたとのことで、歓迎会は当時の神戸の様子や大阪へのドイツ総領事館の移転などの震災時の懐旧談から始まり、歓迎会前にご夫妻で元町などを散策をされての神戸での思い出などなど歓談は尽きずに、歓迎会は講座の後に会員が行きつけのJR高架下の寿司屋での二次会まで及びました。

この度のフィーツェ首席公使の来神はプライベートのご様子でしたので、来年に改めて神戸へお出でいただき、ご講演をしていただくようお願いを致しましたところ、ご快諾をいただきました。明年にフィーツェご夫妻を神戸へお招きして、会員との交流懇談をしたいと思っております。

ドイツ文化サロン 「女性が支える国際交流」

第17回 『私と神戸日独協会』

今回は、神戸日独協会の戦後再建(1954年)直後に協会の秘書として、神戸国際会館(旧)への入居、ドイツ語図書室の開設、ドイツ語講座の開講などに携わって来られた神戸日独協会元理事の田中美津子さんにお話をさせていただきます。

田中さんはかつて神戸に在住したドイツ人の当時の消息などについてのドイツからの問い合わせに対して入念な調査をして返事をしていただくなど、現在でも神戸日独協会にご尽力をしてくださっています。

協会再建時のご苦労、加藤一郎先生をはじめ歴代会長や会員の皆様との思い出など戦後神戸日独協会の生き字引としてのご多彩なお話、戦後から今に至る日独交流のお話などなど、興味津々なお話をさせていただきます。

会員のみならず多くの方のご来聴をお待ちしています。

・講師：田中 美津子さん（神戸日独協会元理事）

大阪大学文学部独文科を卒業(1957年)。神戸日独協会では秘書として勤務(1957年～1959年)。家庭を持って、岡山、倉敷、西宮で暮らし、ミノルタカメラ(株)(現・コニカミノルタ株)本社で嘱託として勤務(ドイツ、ライカ社との技術提携事務担当、1972年～1994年)。神戸日独協会理事(2006年まで)。現在、神戸市在住。

神戸居留地研究会会員。

訳書： オットー・レファート著「神戸のドイツ人」(ドイツ語・日本語訳併載)

- ・日 時： 2018年11月30日(金)14:00～16:00 (開場 13:45)
- ・会 場： ユーハイム神戸元町本店ホール(3階)
- ・会 費： 会員および家族 1300円、非会員 1500円 (ケーキと飲物代)
当日受付にて支払ってください。
- ・申 込： 11月28日(水)までに事務室へメール・電話・ファックスでお申し込みください。
Tel/Fax 078-230-8150 E-Mail : info@jdg-kobe.org

第16回『ドイツマイスター取得の道のり～妻として、母として、 一人の女性として～』感想

- ・講師： ラッハマン 早希子さん
- ・日時： 2018年10月13日(土)14:00～16:00

夢を実現する人

会員 押尾 愛子

女の子の一番なりたい職業は、パティシエ(ケーキ職人)だそう。だが、実際にパティシエとして働くのはなかなか大変で、子供の頃の夢を実現する人は多くはない。今回は、そんな夢を実現した人の話である。

ラッハマン 早希さんは東京・横浜で生まれ育った。子供の頃からお菓子作りが大好きで、高校卒業後はパティシエとなるために専門学校に進みたいと思ったが、親は普通の進学を勧めるので、短大に進み、将来、パティシエになった時に役にたつかなと栄養士の資格を取る。その後、ル・コルドン・ブルー東京校菓子ディプロム科でフランス菓子を学んでディプロムを取得。横浜元町アメリカンハウス“The Best Cheesecakes”で2年間働いた後、アメリカに留学。サンフランシスコでホームステイしながら英語を学び、アメリカのお菓子、デコレーションを勉強した。同じチョコレートでも日本とアメリカでは全然材料が違い、出来上がりも違うのに驚いたと言う。

その後、日本に帰ってからドイツ人男性と知り合い、後にこの男性と結婚することになる。2004年に渡独して、ドイツ語を学びながら、デュッセルドルフの日本人のカフェでパティシエとして勤務する。ここまででもなかなかドラマチックなのに、早希さんが飛躍するのはここからである。

早希さんにいくら資格があり実績があっても、その資格も実績もドイツでは通用しない。「君が本当にパティシエとして働きたいのなら、マイスターの資格を取るほうがいい」とアドバイスしてくれたのは、ご主人である。早希さんはそれまで、マイスターの資格を取ろうなどと考えたこともなかった。ドイツでは共働きは普通のことだし、マイスターの資格があれば将来、自分の店を持つこともできる。早希さんは2006年に結婚して2008年に長女が生まれていたが、子供が小さいうちは勉強するチャンスでもある。そこでマイスターの資格を取るために、2009年に

Handwerkskammer(手工業会議所)でマイスター試験3、4級の講習を受ける。マイスターの試験は専門分野の1、2級と、Handwerk(手工業)に共通の3、4級とに分かれ、3、4級では経営学とか簿記とか、後進の指導についてとか、将来、独立して店を持った時に必要な知識を学ぶ。デュッセルドルフの近くには菓子の専門学校がなかったので、とりあえず3、4級を取ることにした。授業はドイツ語で、早希子さんは授業中ひたすらメモをとり、自宅でご主人にそれを説明してもらったという。2010年1月に終了し、2010年9月には長男が誕生。

次は1、2級である。ご主人の仕事の関係で Erlangen に移り住んだのを機に、2011年に単身で、ベルリンの Akademie der Konditoren Innung Berlin で2~3ヶ月の集中講座を受けることにする。その時は Dessau のご主人の実家に大変お世話になったという。Dessau は丁度、ご主人のいる Erlangen と早希子さんが講習を受けているベルリンの中間にあたり、早希子さんが子供たちと会うのも、このご主人の実家だった。マイスターの試験では、筆記のほかに実技がある。アメ細工、バウムクーヘン、チョコレート、プチフル、トルテ、マジパン、フィンガーフード、アイスクリームなどを、店頭ディスプレイするような感じに、2日半かけてひとりで制作するのである。

こうしてドイツ菓子マイスターの資格を取得して、2013年には Erlangen で子育てをしながら、お菓子教室を開催。日本人にはドイツ菓子を教え、ドイツ人には抹茶を使ってちょっと日本風にアレンジしたりもした。2015年にはパーティ、ケイタリングサービス会社のデザート部門を担当、一番多い時は2000人分のデザートをひとりで用意したという。ドイツは、休みも取りやすいし、子供を幼稚園に預けて働きやすかったという。

では、何故、今、神戸にいるのだろうか？ これもご主人の提案だ。ドイツ人と日本人の間に生まれた子供は、ドイツと日本、両方のことを知るべきだ。子供が小さい今のうちに、日本に慣れるほうがいいのではないか。しかしドイツ語を忘れても困るので、できれば週1回ドイツ語も学べるような環境がいい。こうして調べた結果、白羽の矢が当たったのが神戸・六甲アイランドである。2016年に家族で神戸に下見に来て気に入り、2017年に移り住んだ。そして早希子さんは、にしむらコーヒーが経営する御影のセセッションに職を見つけた。製菓ではなくて、販売・管理のマネージャーだが、この経験は自分で店を持った時に役に立つだろう。六甲アイランドは外国人も多くて住みやすく、子供たちも学校生活を楽しんでいるという。

ラッハマン 早希子さんの生き方から学ぶことは多い。第一に、子供の時の夢を忘れないこと。アメリカのお菓子に始まり、フランス菓子を学んで、ドイツでマイスターの資格を取った。これなら今後どこに行っても通用する。第二に、ラッキーなのは早希子さんの夢を応援してくれるご主人の存在だ。「君は何をしたいんだ？ きみの人生は夫と子供だけじゃないだろう。」こうしてくれる男性がどのくらいいるだろうか？ そして第三に、その夢を叶えるため、努力を惜しまない早希子さん自身の意志だ。こうして早希子さんは、子供の頃からの夢を実現した。

次は何を？という質問に、早希子さんは「分かりません」と答える。次に何があるか分からないけれど、目の前にあることに次々と挑戦して、また自分の道を切り開いていく。この柔軟さがあれば何だってできるだろう。何年か後にまた早希子さんに会って、その時、何をされているか、知りたいものだ。

第16回「女性が支える国際交流」に参加して

会員 河江 有利絵

10月13日14時から協会会議室にてラッハマン早希子さんがサロンでお話してくださいました。早希子さんがお勤めである御影のセセッションのケーキとクッキーをいただき、お話に聞き入っていました。大変興味深い話題ばかりで、ラッハマンさんから様々なこと、例えば、夫の都合により渡独し、ドイツ菓子マイスターの資格を取得した経緯についてお話ししてくださいました。社会構成などを含む文化的差異、併せて、海外の人として扱われる現実がある中、夫や家族の支えがあって子供を育てながらドイツで菓子マイスターの資格を取られたとのこと。ドイツにてのマイスターの実践の試験で出来上がったケーターリングの心躍る彩り豊かなお菓子の写真には惹きつけられました。おっしゃられた経験談の中で、ドイツ人からは「日本のテイストを入れてみたらどうだ？」という希望を受け、思考を凝らし作り上げられたケーターリングの写真は、見た私も思わず手を出したくなるようなかわいくも美味しそうなものでした。お話しの中で、社会に問題意識を持ちつつ、幸せにする美と食を通してドイツと日本の違い、魅力を教えてくださった早希子さんの母として、妻として、一人の人としてのお話しは、私にとって武勇伝のような話で、大変実りある時間でした。大変有意義なひと時を美味しいトルテとクッキーとともに、有難うございました。

2019年関西地区日独協会合同新年会(予告)

恒例の「関西地区日独協会合同新年会」を明年新春に開催します。ご予約にお入れくださり、是非ともご参加ください。詳しくは、会報次号にてお知らせいたします。

日 時： 2019年1月11日(金)

場 所： アサヒスーパードライ梅田

ニッセイ同和損保フェニックスタワーB1 TEL06-6311-2829)

JR大阪駅徒歩10分、御堂筋線梅田駅徒歩10分

地下鉄谷町線東梅田駅、JR東西線北新地駅徒歩5分

会員によるコンサート(予告)

前号にて出演者の募集をしました「会員によるコンサート」の日程が決まりましたので、お知らせします。

日 時： 2019年2月11日(月・祝日)15時半開演 (15時開場)

場 所： 音楽ホール&ギャラリー 里夢 SATOM

(神戸市灘区曾和町1-4-2-B1)(最寄り駅: 阪急六甲駅)

詳しい内容は、12月号会報にてお知らせします。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

会員親睦 秋の遠足

猛暑、台風の時節も終わり、紅葉の時節になりました。神戸日独協会では、GJGの企画に便乗して、春秋に行ってきました「会員親睦の遠足」を行います。奮ってご参加下さい。

西国三十三所1300年—巡礼とWanderung—

西国三十三所は、全国に600以上あるといわれる札所めぐりの中でも最も歴史が古く、全国数多くある観音巡礼の根源と言われています。平成30年(2018年)は、西国三十三所草創1300年にあたり、各札所で記念の御朱印、特別展などのイベントが行われています。

今回は、「西の比叡山」とも呼ばれ平安中期に建立された天台宗別格本山第27番札所「書瀉山圓教寺」に行きます。11月16日(金)からは、重要文化財の特別公開や紅葉のライトアップをはじめとした「書写山もみじまつり」も開催されます。

ロープウェーを降りてからの参道には姫路市内を遠望できる見晴らしを楽しめる所もあり、何よりも盛りの紅葉を愛でながら歩くことができます。圓教寺の中心である摩尼殿は京都清水寺と同じ舞台造りで立派な建物です。境内には姫路城城主であった本多家の墓所やラストサムライのロケ地にもなった寺院もあります。

□日時／Zeit: 2018年11月17日(土) 13:10～15:30ごろ

Sonntag 22.7 2018 13:10～15:00

□場所／Ort: 書瀉山圓教寺

(集合場所: 姫路駅北口神姫バスのりば⑩)

□費用／Kosten : 志納金500円、交通費各自(バス: 姫路駅—書写山ロープウェイ、往復540円; 書写山ロープウェイ: 往復900円、ロープウェイ山上駅—摩尼堂: 500円)

□申込／Anmeldung: 2018年11月16日(金)までに Bis Montag 12. 11. 2018

Tel: 078-230-8150 E-mail: info@jdg-kobe.org

□バス案内／姫路駅(北口)系統名: [姫路駅(北口)～姫路高校前～書写山ロープウェイ]書写山ロープウェイ行き)

催し再案内

ドイツ家庭料理講習会

2018年度 第3回ドイツ家庭料理講習会 開催のお知らせ

7月にスタートをしました今年度のドイツ家庭料理講習会シリーズ第1回目及び第2回目講習会は好評のうちに終了することができました。ご参加の皆様には、ありがとうございました。

引き続き、第3回目の講習会を、今回は以前にもドイツ家庭料理をご指導して頂きました、合田ドロテアさんに、また新しい視点からのお料理をご指導いただきます。

今回、合田ドロテアさんが掲げておられるお料理のテーマは、“早くて、簡単で、美味しい” イタリア風、和風、ドイツ風料理 です。

多くの会員の皆様、お知り合いの方々にご参加いただきますようご案内いたします。

◇日 時 : 2018年11月18日(日)13時15分—17時(13時までに集合してください)

◇場 所 : うはらホール(料理教室)(JR 住吉駅すぐ南の東灘区民センター8階)(078-822-8333)

◇料理メニュー : メインメニュー Spaghetti mit frischen Tomaten

フレッシュトマトとシソの葉のスパゲッティ

前 菜 Asari Muschelsalat mit Knoblauch Baguette

あさり貝のサラダ、ガーリックトースト添え

デザート Apfelpfannkuechlein

りんごのプティパンケーキ

◇参加費 : 1200円(会員は1000円)と材料費

材料費の概算は、追って参加者にお知らせします。

◇募集人数 : 24名

◇申し込み: 参加ご希望の方は、11月12日(月)までに、神戸日独協会事務室まで、電話・FAX・メールにてお申し込みください。定員になり次第締め切らせていただきます。

参加費・材料費は、当日現地でお支払いください。

※ 当日、エプロン、タオル、レシピ(後日参加者に送付)と筆記用具をご持参ください。

2019年 の ドイツ家庭料理講習会 予告

ドイツ家庭料理講習会は、2019年にも引き続き開催を予定しておりますので、多くの会員の皆様、お知り合いの方々にご参加いただきますようご案内いたします。詳しい内容は、追って会報でお知らせします。

第4回ドイツ家庭料理講習会 2019年1月20日(日) 13時—17時 うはらホール(料理教室)

講師 : マルティーナ・ライリング=ケーラーさん

Frau Dr. Martina Reiling Köhler(ドイツ総領事夫人)

第5回ドイツ家庭料理講習会 2019年3月10日(日) 13時—17時 うはらホール(料理教室)

講師 : 料理研究家の日下部菅子さん

会報号数の訂正

すでに発行しました会報2018年9月号の号数に誤りがありました。332号ではなく正しくは333号でした。お詫び申し上げます。従いまして、本号は335号になります。

ドイツ語談話室

第179回ドイツ語談話室

日時：2018年10月20日(土) 14-16時

場所：神戸日独協会会議室

テーマ：秋祭り

今回の司会は松浦庸夫氏が担当され、収穫に感謝する祭りとして古来日本で公式には、天皇が新米を伊勢神宮に奉る神嘗祭として10月17日に行はれ、近年には11月23日に行はれる新嘗祭が勤労感謝の日となっている事を説明された。また、ドイツでは10月の第1日曜日が収穫祭で、これはキリスト教の祝日で、アメリカでは元ケルトの祭りであったのがハロウィーンとして祝われている。参加者からの発言の一部を以下に紹介する。

—神戸でも各神社で秋祭りがあり、だんじりが練り歩く。この収穫の季節には、親戚から収穫されたいろいろな野菜などを頂く。

—コメの収穫時期に、おみこしが出たり、子供たちが獅子の面を担いで獅子舞をする風習があった。秋祭りは、日本では神社が、ヨーロッパでは教会が中心となっている。

—山口県の地方の秋祭りでは、“いのこ”と呼ぶ祭りがあって、そこでは女の子が菊の花を集めて来て翌日それを川に流す、と言った習慣があった。

—神戸市北区の神社では、10月8日の秋祭りに、流鏝馬の行事が行はれた。

—アメリカのハロウィーンの起源は、アイルランドから来たそうで、祭りに使われるランタンはもともとかぶであったのが、アメリカに来て、多く栽培されていたカボチャに変わったようだ。

—秋祭りには、子供の頃、近所の神社に金魚釣りや射的の屋台が出て、よく遊んだことが懐かしい思い出である。

—ドイツでは、10月を Goldene Oktober と呼んでいた。美しい花々や金色に色づいた木の葉が美しい素晴らしい季節である。ブドウの収穫やリンゴの収穫が思い出されて懐かしい。

—岸和田のだんじりで、男たちがだんじりの屋根の上で踊る姿は勇壮である。今年は猛暑のせいで、庭の野菜たちが不作であった。

—神道では、自然の中に神が宿っている。秋祭りに因んで一句作った。「秋祭り 川面に響く えんやっさ」

—秋祭りには、近くの神社に多くのだんじりが集まり、屋台が出ていたり、サーカスがあったりしたのを思い出す。獅子踊りはもっぱら子供たちのものだった。

今後のドイツ語談話室の予定

第180回 2018年11月17日(土) 14-16時 テーマ：私のお勧めの散歩道

第181回 2018年12月15日(土) 14-16時 テーマ：この1年を振り返って

(12月の談話室ではワインを楽しみますので、各自おつまみをご持参ください)

Deutsche Gesprächsrunde

Protokoll der 179. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 20. Oktober 2018, 14 bis 16 Uhr

Thema: Das Erntedankfest

Dieses Mal hatte Herr Tsuneo Matsuura die Gesprächsleitung und erklärte, dass das traditionelle Erntedankfest Japans, „Kanamesai“, am 17. Oktober gefeiert wurde. Der japanische Kaiser, Tenno, brachte an diesem Tag den neuen Reis des Jahres dem Schrein von Ise dar. Heute wird das Erntedankfest „Niinamesai“ am 23. November gefeiert, der Feiertag trägt den Namen, „Kinrokansha-no hi“ (Arbeitsdankfest). In Deutschland wird das Erntedankfest am ersten Sonntag im Oktober gefeiert, das ist ein christlicher Feiertag. In den USA wird zum Erntedank Halloween gefeiert. Dieses hat seinen Ursprung in einem keltischen Fest.

Bei der Gesprächsrunde kam es unter anderem zu folgenden Wortmeldungen:

-Eine Teilnehmerin erwähnte, dass auch in Kobe jeder Shinto-Schrein das Erntedankfest mit einem „Danjiri“-Festwagenumzug feiert.

In dieser Jahreszeit bekommt sie oft verschiedenes Gemüse von ihren Verwandten.

-Ein Teilnehmer erinnert sich an die Reiserntezeit, in der man die Ernte mit „Omikoshi“ (shintoistischen Trageschreinen) oder „Shishimai“ (Tanz in einem Löwenkostüm) feierte. Bei den Erntedankfesten in Japan stehen die Shinto-Schreine im Mittelpunkt, wie in Europa die Kirchen.

-Eine andere Teilnehmerin erwähnte, dass man in einer Gegend in Yamaguchi das Fest „Inoko“ feiert. Dazu pflücken die Mädchen Chrysanthemen, die am nächsten Tag im Fluss schwimmen gelassen werden.

-Ein Teilnehmer berichtete, dass am 8. Oktober bei einem Shinto-Schrein in Kobe das Fest „Yabusame“ gefeiert wird, wobei von Pferden aus Pfeile mit einem Bogen abgeschossen werden.

- Ein Teilnehmer sprach davon, dass Halloween ursprünglich aus Irland in die USA kam. In Irland wurden Laternen aus Rüben gefertigt, in den USA benutzt man die dort häufig angebauten Kürbisse.

-Ein weiterer Teilnehmer erinnert sich mit Nostalgie an die Erntedankfeste seiner Kindheit. Es gab viele Buden um den Shinto-Schrein herum mit „Goldfischfischen“, „Scheibenschießen“ etc..

-Eine Teilnehmerin erwähnte, dass man in Deutschland den Monat Oktober auch den „Goldenen Oktober“ nennt. In diesem Monat gibt es viele schöne Blumen und die Blätter haben schon goldene Farbe angenommen. Mit Freude erinnert sie sich an die Weintrauben- und Apfelernte.

-Eine andere Teilnehmerin berichtete vom „Kishiwada Danjiri Fest“. Die Männer tanzen auf dem Dach des Festwagens. Das erfordert viel Mut.

Wegen der gewaltigen Hitze dieses Sommers hatte sie beim Gemüse in ihrem Garten nur eine schlechte Ernte.

-Eine Teilnehmerin erwähnte, dass man im Shintoismus glaubt, dass in der Natur Götter seien. Zum Erntedankfest, dichtete sie ein Haiku: „Akimatsuri Kawamo-ni hibiku Enyassa“ (Herbstfest, das Echo der Rufe hallt über den Fluss).

-Ein weiterer Teilnehmer erinnert sich mit Nostalgie an die Erntedankfeste im Dorf mit den Verkaufsständen, Zirkusdarbietungen etc.. Der Tanz im Löwenkostüm wurde hauptsächlich von den Kindern getanzt.

Nächste Treffen:

Samstag 17. November 2018, 14 bis 16 Uhr, Thema: Mein Lieblingswanderweg

Samstag 15. Dezember 2018, 14 bis 16 Uhr, Thema: Mein Jahresrückblick

(Im Dezember, bitte Kleinigkeiten zum Essen mitbringen.)

連載 ドイツ語閑話

第2回 ドイツ語の発音の話

会長 柘田 義一

第2回目は、ドイツ語の発音の話をしてしまおう。

皆さんは、ドイツ語を聞いてどんな印象を持ちますか。ごつごつとしてなんだか命令されているようだ、一語一語がはっきりしている、などなどいろいろな印象を抱かれるでしょう。

英語では bread and butter (バターを塗ったパン)は日常会話では「ブレッド アンド バター」ではなく「ブレドゥンバター」のように、フランス語でも mes enfants (私の子供)は「メザンファン」と、相前後する語が結合して発音されます。ドイツ語では原則として母音で始まる語が前に位置する語の最後の子音(字)と結びついて発音されること(いわゆる「リエゾン Liaison」)はありません。

これはドイツ語での「発声の開始のやり方」(これを「声立て Stimmeinsatz」と言います)に特徴があるからなのです。発声の際には音の材料である肺から吐き出される息(呼気)は先ず喉頭にある声帯を通過します。声帯は左右一対の唇状のひだで、これが付着している披裂軟骨の動きによって左右の声帯は引き離されたり、接近したり、様々な形をとることが出来ます。このことが母音の音源、濁る有声音(b,d,g)と濁らない無声音(p,t,k)の区別など言語音の諸特徴にとって重要な役割を演じているのです。左右の声帯の間を声門と言いますが、これが互いに密着してしまうと、呼気は通過することが出来ずに、声を発することはできません。この時声帯の下の呼気圧が高くなり、声帯の上の気圧よりも高くなると、呼気は一気に声帯を押し開けて流れ出てしまい、破裂音が生じ、同時に発声が始まります。この破裂音を「声門閉鎖音」(Glottal Stop)と言います。ドイツ人のド

イツ語発音のテープをスピードをコントロールして聞いてみると、傘を勢いよく開いた時の「パツ」という噪音が認められます。ドイツ語の発音上の習慣として、語頭の母音はこの声門閉鎖音を伴うのです。単語の最初の母音が破裂音を伴うなんて、？ですね。ですからこの声門閉鎖音は国際音声記号 IPA では[ʔ]で表わされます。英語では an apple [ənæpl]ですが、ドイツ語では ein Apfel [ʔam ʔapfl]です。辞書などの発音表記では声門閉鎖音は略されて示されないのが一般的です。

母音で始まる語に伴われる声門閉鎖音によって発音が区切られるために、簡単に言えば一度息が切れるために、母音が前に位置する語の語末の子音と結びついて続けて発音される(これを連音という)ことがないのです。このことは接頭辞を伴う複合語の場合にも生じます: Erinnerung(記憶)はエリネルングではなく、エアインネルングですよ。

日本語では発声の開始時に声帯が発声の状態にあって声帯の緊張が弱いため、声門閉鎖音を伴わずに発声が始まります。そのためにドイツ人の耳にはあいまいな言い方に受け取られやすいようです。従って、日本人は意識的に語頭の母音を強めに発音するようにした方がよいでしょう。ドイツ語の発音では一語一語はっきりと発音されて、英語に比べると歯切れがよい理由は、このドイツ語の発声の際の「声立て」の特徴によるのです。

実行委員として神戸日独協会の活動に参加しませんか

神戸日独協会の主要な年間の活動は総会及び理事会によって決定されますが、日頃の活動は実行委員及び会員によって行われています。実行委員は定款上の役職ではなく、会員のボランティアによるものです。毎月第3日曜日に実行委員会を開催し、会員の方々が希望するあるいは実行委員のアイデアによる催し物を企画し、準備し、実行しています。神戸日独協会は会員の皆様の積極的なご支援を必要としています。

次回の実行委員会は第3ではなく第4日曜日の11月25日(日)15時より協会会議室にて開催しますので、奮ってご参加ください。

事務室からのお知らせ

会報発送ボランティア募集

会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の発送予定日は12月13日(木)です。お手伝いいただける方は、事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越しください。

これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込〆切 など
11月17日(土) 13:10~	西国三十三所1300年 —巡礼とWanderung—	書瀉山圓教寺	11月16日(金)まで
11月17日(土) 14:00~	第179回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室	当日参加可
11月18日(日) 13:00~	第3回ドイツ家庭料理講習会	うはらホールの 料理教室	11月12日(月)まで
11月25日(日) 15:00~	実行委員会	神戸日独協会 会議室	当日参加可
11月30日(金) 14:00~	第17回 ドイツ文化サロン	ユーハイム神戸元町 本店ホール	11月28日(水)まで
12月9日(日) 17:00~	クリスマス祝賀会	神戸倶楽部	12月5日(水)まで